

一般社団法人画像診断研究・振興・普及協会

平成 26 年度（H26. 1. 1-12. 31）事業報告書

当法人は平成 22 年 3 月 1 日に設立されました。当法人は、画像診断の研究や支援を通して画像診断の普及を図る活動を行い、もって学術及び科学技術の振興に寄与することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行うことを定款に謳っています。

1. 画像診断の研究開発事業およびその研究成果の臨床応用を支援する事業
2. コンピュータやネットワークによる画像診断支援技術の研究開発事業及び臨床導入を支援する事業
3. 画像診断支援技術を用いた画像診断を提供する事業及びそれを支援する事業
4. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

平成 26 年度の事業内容概観

研究事業に関しては「コンピュータ支援診断技術の開発促進のための統合型読影支援環境の実用化に向けた実証研究」の継続として、コンピュータ支援診断（CAD）入力に対する読影医からのフィードバックを援助しています。CAD を用いることによる読影報告書品質の向上が得られるであろうとの考えのもと、今後も継続する予定です。また平成 25 年度より東京大学医学部放射線科との共同研究を開始し、CAD ソフトウェアや CIRCUS の開発を支援しています。さらに画像診断の研究促進のために東京大学に対して寄付を行っています。

遠隔画像診断支援業務は現在 4 施設と契約中ですが、1 医院との契約が 2015 年 5 月いっぱい終了することが予定されています。26 年度の遠隔読影件数は 15763 件から 16032 件と前年からほぼ横ばいでした。26 年度より新たな契約先の開拓を始めており、営業職を一名委託しております。平成 25 年度から開始した大腸 CT の遠隔読影支援の 26 年度の件数は 233 件でした。

平成 26 年度の事業内容は下記のとおりです。

1. 画像診断の研究開発事業およびその研究成果の臨床応用を支援する事業
 - 画像診断研究やその臨床応用の研究のために合計 500 万円を寄付（東京大学、研究者 2 名）。
2. コンピュータやネットワークによる画像診断支援技術の研究開発事業及び臨床導入を支援する事業
 - 東京大学と 1 年間の共同研究契約「コンピュータ支援検出／診断の開発研究および臨床応用」を継続。研究経費の追加は 100 万円。
 - 大学病院と市中病院の間の画像診断支援に関する共同研究を支援する事業。
 - 株式会社 JMAC と東大病院放射線科、株式会社イーサイトとともに経済産業省の研究支援事業に「コンピュータ支援診断技術の開発促進のための統合型読影支援環境の実用化に向けた実証研究」の継続。
3. 画像診断支援による営利事業
 - 遠隔画像診断支援：2 病院、2 医院を継続。
 - 1 医院の撮像技術指導を 2010 年より継続中。
4. その他事業
 - 該当事項なし。

以上。

文責：林直人